

## 新規捕獲手法の検討計画(案)

### 1. 新規捕獲手法の必要性

大台ヶ原におけるニホンジカの個体数調整については麻酔銃を用いた捕獲を長期間実施してきたため、ニホンジカ個体の警戒心が高まることにより、ニホンジカの日撃数の減少やニホンジカとの距離が遠くなり、捕獲効率は年々減少してきている。このような現象は装薬銃を用いた捕獲が行われる地域(乱場など)でも一般的に見られる。

今後、目標捕獲数を確保するためには、ニホンジカに警戒心を抱かせない、あるいは警戒心が小さくなる夜間にも実施可能な捕獲手法を用いる必要がある。

### 2. 新規捕獲手法の検討

昨年度検討を行ったドロップネットに加え、くくりわな及び大型囲い柵について検討を行う。

#### (1)くくりわな

##### ア. 課題と対策

くくりわなは、狩猟で一般的用いられる法定猟具であり、錯誤捕獲を防ぐために輪の直径を12cm以下にすることや、締付防止金具やよりもどしを装着すること、ワイヤーの直径を4mm以上とすること等が義務づけられている。

大台ヶ原での使用を検討する際に解決すべき課題として以下の点が考えられる。

- ① 公園利用者が誤ってくくりわなにかかる可能性があること。
- ② 捕獲された個体に公園利用者が不用意に近づくことにより、個体が暴れ、利用者がけがをする危険性があること。
- ③ ツキノワグマ等を錯誤捕獲する可能性があること。

上記の解決策として以下の措置をとることが考えられる。

- ・公園利用者に対し看板などでくくりわな設置位置やくくりわなの安全なはずし方の表示を行う。また、人に対して安全かつ取り外しが簡便なくくりわなの種類を使用する。
- ・くくりわなの状態を常時監視できる場合のみ設置する。
- ・ツキノワグマの活動が活発な時期を避けるとともに、出没情報があった場合には実施を中止する。万一錯誤捕獲があった場合に安全に放獣できる体制をとる。

## イ. くくりわなの試験計画

大台ヶ原におけるくくりわな使用の検討にあたり、下記注意事項、手順に基づき試験的に設置する。

### (ア) 試験にあたり留意する事項

- 人間に対する安全性の確保
- 錯誤捕獲への対応
- 継続的で高い捕獲効率の維持

### (イ) 試験の手順

#### ①くくりわなの設置にあたっての法令等の遵守

くくりわなの設置にあたっては以下の項目を最低限の遵守事項とし、さらなる安全面の配慮を行う。

- くくりわなのつり上げばねに対し、垂直方向の直径を 12cm 以下とする
- ワイヤー径を 4mm 以上とする
- 固定ワイヤーによりもどし装置を付ける
- 設置者の情報を記載したプラスチック製プレートを装着する
- 毎日見回りを行う
- 数の制限を遵守する
- つり上げ式のくくりわなは使用を禁止する

#### ②設置期間

10月20日～10月25日の6日間

緊急時に迅速な対応ができるよう、麻酔銃による捕獲時期と同じ時期に設置、実施。

#### ③設置するくくりわなの種類と個数

設置するくくりわなは、設置が容易、構造が単純、一定の効果が認められている「バネ式くくりわな」(図1)。

- 締付け防止金具：輪のしぼりを一定の大きさに制限する金具
- よりもどし：ワイヤーにかかるよりを戻すことができる

試験的な使用であることから、設置するくくりわなの数は十分な管理を行うことのできる10基程度とする。

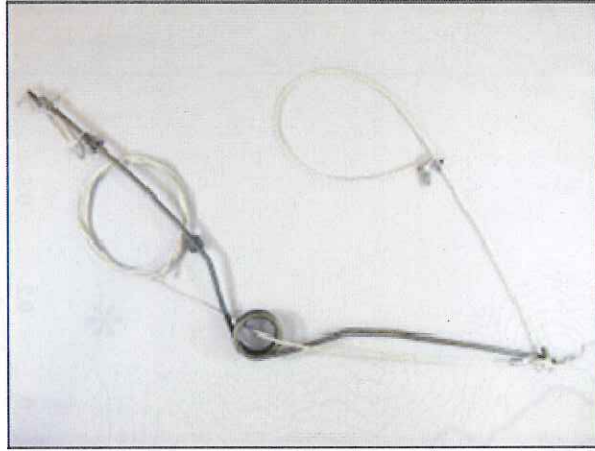


図1 バネ式くくりわな

#### ④設置場所、時間の設定

(設置場所)

- これまでに設置したわなと同様、公園利用者の目に入らない場所に設置する。
- 稼働後、捕獲が確認された場合に直ちに駆けつけることができる場所

(設置時間)

- 10月20日～25日 昼夜設置  
ただし、捕獲者の到着に時間を要する場所については、昼間のみ設置する。

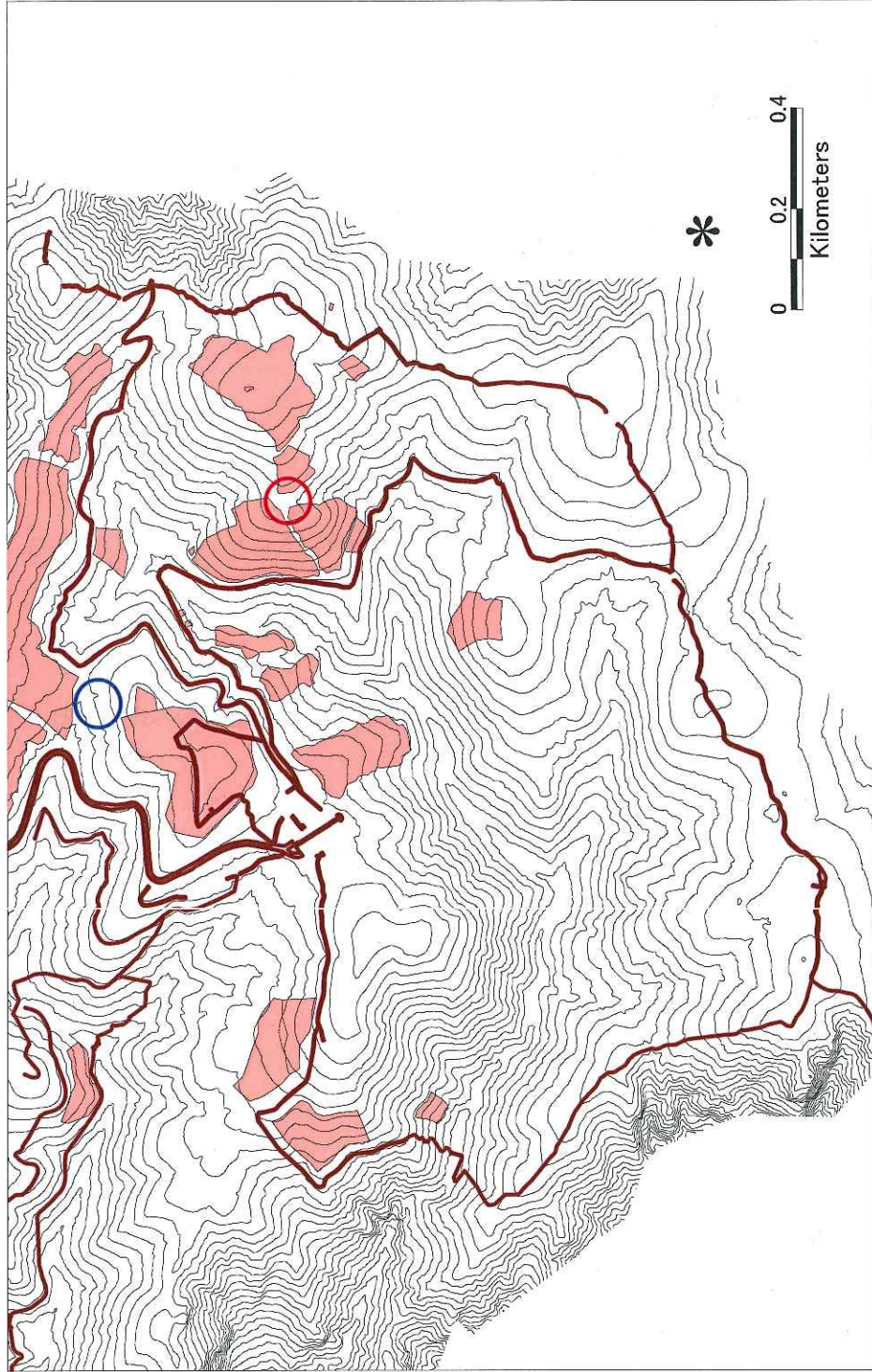


図 1 くぐりわな設置予定位置 (○：昼間のみ稼働、○：昼夜稼働、■：防鹿柵)

## ⑤設置、巡視および回収の体制

わなの設置、巡視および捕獲個体の回収は麻醉銃による捕獲を行っている個体数調整事業実施請負者が行う。

なお、わなの設置にあたっては、上北山猟友会の協力体制の下、適宜アドバイスを受ける。

## ⑥捕獲個体の処置

捕獲個体は麻醉銃または吹き矢を用いた薬物投与により安楽死させた後、保護管理上必要な試料を採取した後、適切に処理を行う。

## (ウ)緊急時、事故予防の対応体制について

### ①錯誤捕獲について

- 錯誤捕獲が起きた場合には、麻醉薬による不動化を行い、放獣する。
- 大型ほ乳類の錯誤捕獲を想定し、イノシシ、ツキノワグマ、カモシカの個体の大きさに応じた麻醉薬を携帯する。
- キツネ、タヌキ等の中型ほ乳類の錯誤捕獲の場合には、麻醉薬を使用しない放獣を行う。

### ②人への対応

- 人がくくりわなにかからないよう、くくりわなの近辺に注意喚起の看板を設置する。
- 市販されているくくりわなは、人が外せる構造となっているが、万が一に備え、くくりわな近辺にくくりわなの外し方の看板をつけておく。

### ③くくりわなの作動状況のモニタリング

わな設置場所に自動撮影カメラを設置し、捕獲状況やくくりわなの作動不良等を記録し分析する。

## (2)大型囲い柵の検討

資料1で示した誘引試験による結果から大型囲い柵によって捕獲することが可能と考えられ、特にビートパルプによる誘引が有効と考えられる。ビートパルプを誘引物に使用した大型囲い柵を複数設置することで相当数の個体を誘引できると考えられるため、大型囲い柵の設置場所や設置方法について検討を行う。

## (3)ドロップネット

平成19年度新規捕獲手法開発として、ドロップネットの試行を行ったが、ネットが個体に絡まりにくく、捕獲に至らなかった。現在、使用可能なネットを検討中である。